

令和7年度
富勢小学校教育課程説明会



柏市立富勢小学校

創立 126年目

児童数 597名 普通学級18 特別支援学級6

職員数 54名 県費職員41名 市費職員 13名

学校教育目標

自ら学び 心豊かに たくましく生きる富勢の子 の育成

「挑戦し やりぬこうとする子」

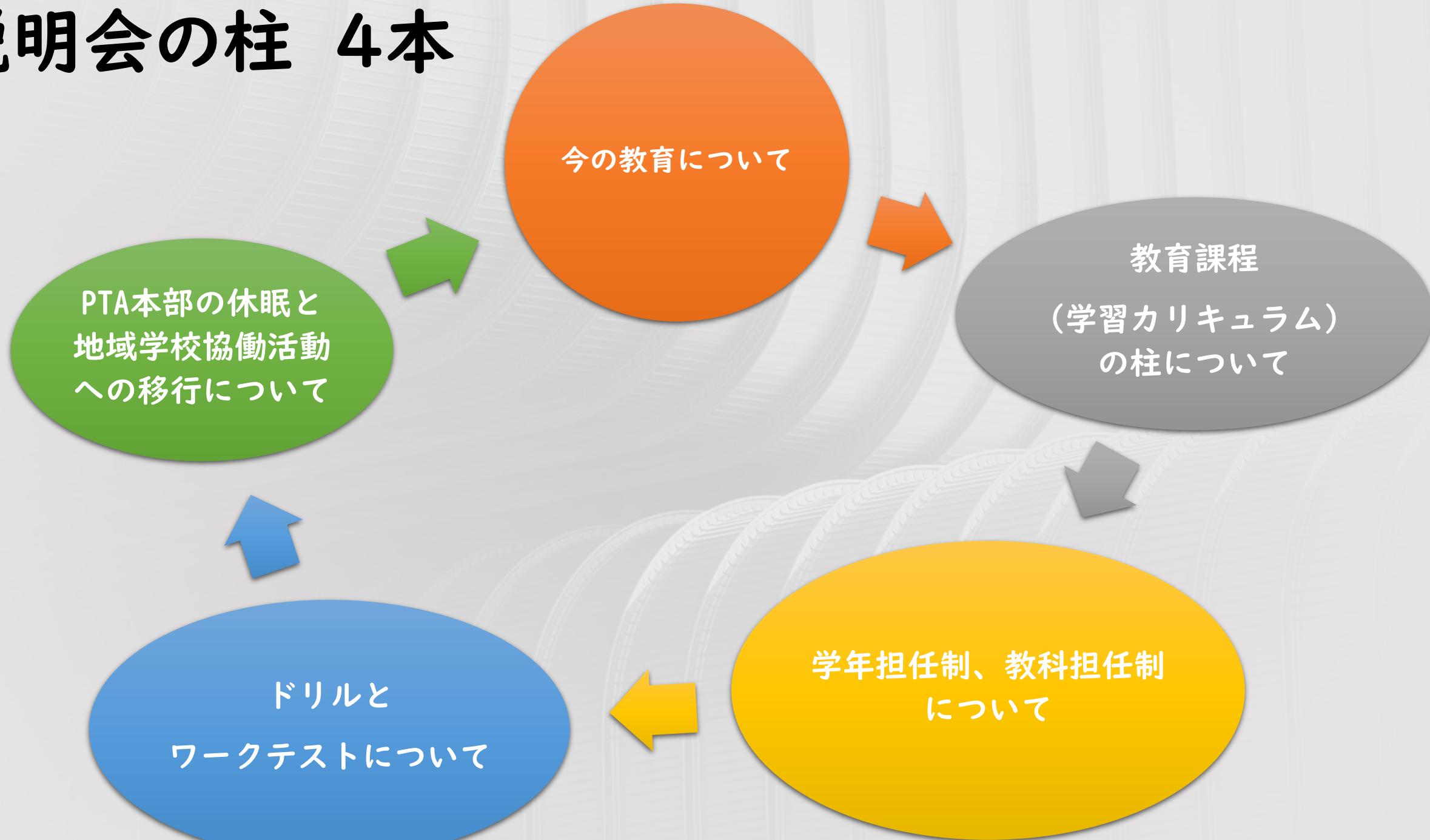
子供を主語にして 教育活動を見直す

力を入れる授業 生活科と総合的な学習の時間（富勢中学区）

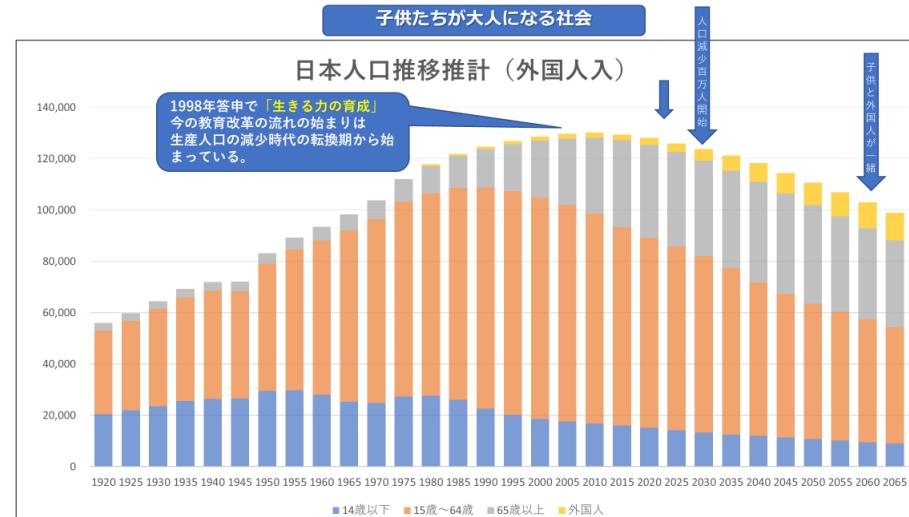
「地域の担い手」を育てる

柏市立富勢小学校

説明会の柱 4本



教育は子供の今を育て 未来（社会）を創ること



これからの授業（社会）



これまでの社会（授業）：レガッタ

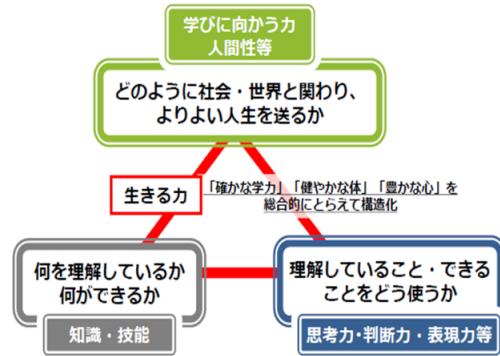


これからの社会（授業）：ラフティング



1. 新学習指導要領が求める資質・能力

新指導要領が育成を目指す資質・能力の三つの柱



独立行政法人教員支援機構

主体的対話的
に取組む



主体的
自分で考えてより良いことを行う。

自主的
先生に言われなくても行う

積極的
先生に言われて一生懸命行う

コロナ禍によってわ
かった、今までの教育
の間違い

学校が休校すると、子
供たちの学びも
止まってしまった。

子どもは空っぽのコッ
プで、そこに
知識を流し込むと
入っていく。
は ×…

自分からやってみたい、
知りたい、
そういう動機があって
初めて学びが成立する

チーム富勢小で子供たちに力をつける・育てる
学級・学年・教科・学校の壁を取り除いていく

・学校の壁

- ・コミュニティ・スクールとなり、地域の方々と目指す姿を共有して、総合的な学習や生活科から一緒に行う。
- ・学習ボランティアを活性化しながら、学校を核とした学びや活動を大人にも子供にもつくるていく。
- ・GIGA環境「Global and Innovation Gateway for All（全ての児童・生徒のための世界につながる革新的な扉）」を活用した教育の推進

・学年の壁

- ・富勢学区の歴史、自然、文化、人、お店、課題などを教材とした学習を4校で共有していくようにつくり、子供たちが地域に出ていき、地域を好きになる。「地域の担い手を育む」
 - ・学区の公園に出ていきます。
 - ・町会やお店・農家・企業の皆さんとの交流
 - ・幼稚園や保育園の子どもたちとの交流 学びがつながっていきます。

・学級の壁 教科の壁

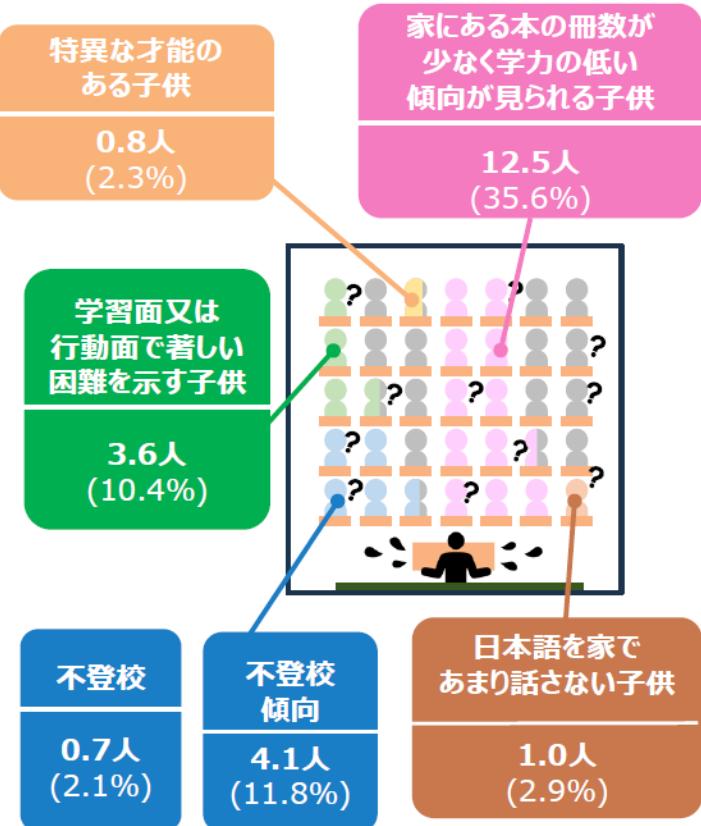
- ・学年担任制の導入。朝の会、帰りの会、給食、掃除、先生が入れ替り指導。一部の授業も交替して教科担任のような形。保護者の相談を複数で担当する。保護者面談も固定せずにおこなっていく。

教育課程の軸は「子供を主語に」

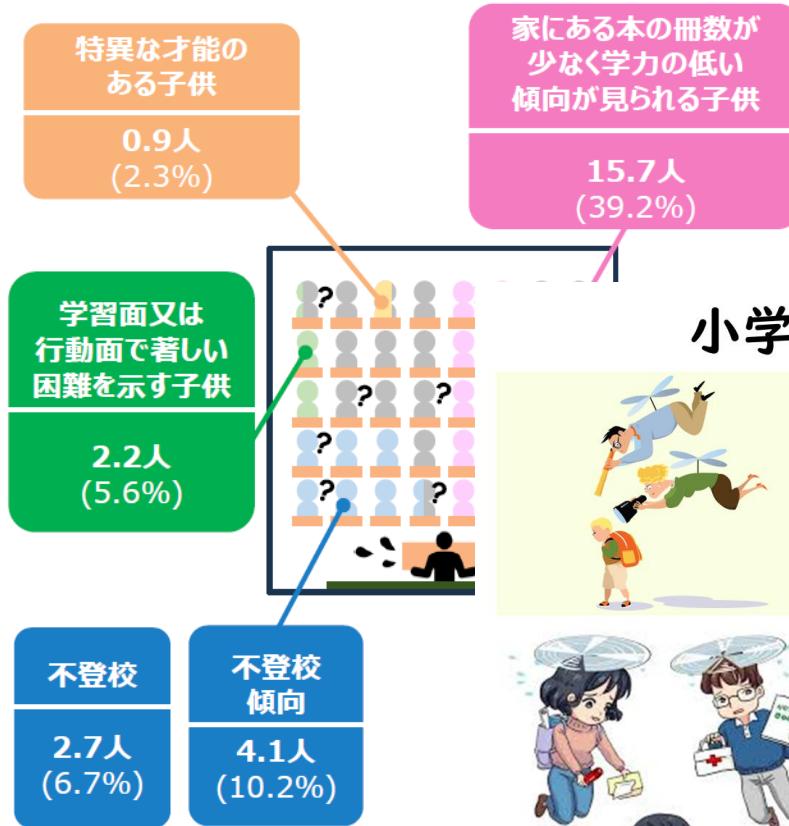
学校における児童生徒の多様性を包摂する必要性

○どの学校においても、多様な個性や特性を有する子供が在籍している実態が顕在化している。こうした多様性を包摂し、一人一人の意欲を高め、可能性を開花させる教育の実現が喫緊の課題。

小学校（35人学級）



中学校（40人学級）



35人学級

得意な才能	1人
学習・行動で困難	4人
不登校傾向	5人
日本語話せない	1人
家庭環境的に学力が低いわゆる普通の子	13人
	16人

小学校に入ったら

- ・子どもには、
 教えて
 →やらせて
 →失敗させて
 →失敗から学ぶようにする。
- ・失敗をして自分で考えてやりなおす→自律する
- ・失敗しないと、自己肯定感が低い、依存的になり、大人になって失敗すると…
- ・認知能力（数値化できる力）と非認知能力（数値化できない力） 大切なのは非認知

教育課程の軸は「子供を主語に」

- ・子ども主語=放任、自由、では無い。

自由進度学習など・・・活動のある授業づくりは

多様な子供がどう思考するか、

その学びの道筋を教師が予測し、見取り、

子供に気づかせ導いき、**やる気を引き出す**学びづくり

- ・今までの授業とは違ってくる=学力観・授業観を大人たちが捉えなおす時期になっている。
- ・先生が用意した正解を記憶して、再生できる力ではなく、自分から課題を見つけて学んだいく力が必要。 復習宿題× 自主学習○



2025年度 富勢小 学校経営グランドデザイン

学校教育目標 自ら学び 心豊かに たくましく生きる富勢の子 の育成

校長が示す

中期目標 3年後に実現したい学校像
地域と共に教育課程（カリキュラム）を共有し、
目指す子どもの姿の実現に向け、学校は地域を、
地域は学校を考え教育活動を通じて発展しあう
学校。

短期目標 25年度末に実現すること
富勢小の職員と保護者・地域が目指す児童の
姿を共有し、学校行事、各教科の指導を捉えな
おし、富勢3小学校が関わり合う視点を持って
子供の学びに沿った教育課程を創る。

みんなで出し合いプロジェクトで決める

目指す子どもの姿

挑戦し やりぬこうとする子！

Control
自分を大切に
他者を尊重する力

Communication
考えを伝え、協力する力

Challenge
しなやかに挑戦し続ける力

Concept
社会で活かせる学びの力

経営重点手段 3つの新

新しい発想で取り組む

- ・子どもを主語にした、個別最適で協働的な学びの具体化を図る授業実践
- ・富勢地域、外部との関わり、学習支援ボランティアを活かした地域一体型の学びを創る
- 新しい活用方法を工夫する
- ・学年（チーム）担任制で取り組む
- ・図書館、GIGA、ラーコモの一体的活用
- 新しい教育課程を創る
- ・生活科、総合の学習を軸に他教科連携を深め富勢4校での学びの道筋を創る
- 目指す教師像
- ・前例に捉われない挑戦力
- ・他学年や地域と協働する調整力

具体的な取組み

プロジェクトチームで具体策を示す

1 新しい発想で取り組む

- * 校内研究の一人一研究で、「個別最適な学び・協働的な学びの視点」を取り入れた単元作りをした授業を展開する。お互いの授業を見合い、振り返りながら授業改善を行い、挑戦する力を向上させる。
- * 子どもが自ら家庭学習に取り組めるよう、指導内容を工夫する。（宿題は見直す）、選択肢のある課題やスマイルネクストドリル活用など、自学力を向上させる。
- * 子ども自身が学びのゴールを設定し、達成できるように学び方を選択させ、見通す力を向上させる。

1 新しい発想で取り組む

- * 子どもが安心して学べる言語環境を整え、子どもが挑戦したくなるようなきっかけ作りを行い、挑戦したことの価値を持たせる。
- * 目標設定を生かす。目標は常に「なりたい自分の、自分たちの姿」として設定し、達成できた実感が持てるような支援をして、成功体験から自身につなげていく。

実現手段

2 新しい活用方法を工夫する

- * 「調べる学習」ハンドブックを基に、様々な教科で学校図書館とGIGA端末を活用した教育活動に取り組む。自分なりの課題意識を持ち、協働的な学習を行いながら課題解決に取り組む力を向上させる。

2 新しい活用方法を工夫する

- * 自分の考えを伝える力をつけるため、R80メソッドを様々な教科で導入する。地域や富勢4校の交流を通じて、コミュニケーション力を育成する。

3 新しい教育課程を創る

- * 「子どもを主語にした」生活科・総合的な学習の時間を軸とした、カリキュラムマネジメントを行い、「地域の担い手を育む」を目指し、挑戦する力を向上させる。富勢4校校内研究の成果を他教科や行事等に生かす。
- * なかよし活動や委員会・クラブ活動等での異学年との交流を通して、上級生としての意識を高め、自己肯定感を高められるようにする。

3 新しい教育課程を創る

- * 生活科・総合的な学習、各教科の学習活動で外部の方々と触れ合う中で、基本的なマナー等を発達段階に応じて身に着けられるように、実の場での学びを大切にする。
- * 失敗から学び、自分からそうなりたいと思って身に付けていく場を大切にする

成果効果

- ・富勢小学校が目指す姿を、学校、保護者、地域で共有し、教育活動が展開され、目指す姿に掲げる姿の実現が図られる。
- ・富学協の関係者が学校と地域との橋渡しを行い、子どもたちの体験の充実、学びの充実が図られる。

令和7年度教育課程の工夫点 Ⅰ

- ・教育課程（カリキュラム）の軸は、富勢地域を教材とした生活科と総合的な学習の時間として、各教科の学習との関連を図りながら、本物の学び（オーセンティックラーニング）に近づけていく。
- ・さらに、富勢地区の小中学校4校が連携した学びに発展させていく。

令和9年度 千葉県教育研究会 生活・総合的な学習部会の研究大会会場を予定



学習の柱と 大きな流れ について

生活科と総合的な学習の時間を軸に、各教科との関連づけを意識したカリキュラム 職員室前に掲載

- ・富勢4校の学びが関連していく
- ・2学期に中心的な活動が行われるカリキュラム
- ・富勢地域を教材とした取り組み 「地域の担い手を育む」
- ・地域や保護者の学習支援を多く受け入れる
- ・一人一人が課題を持って取り組み、取り組んだ結果が貢献につながる

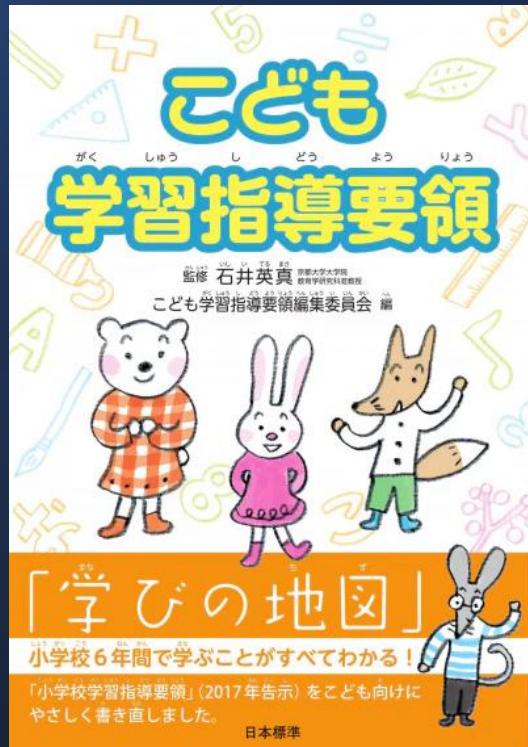
・くすの木音楽祭は 6年生を送る会に統合

- ・2学期に総合と同時並行は集中力が分散するため再検討（やることが目的になりがち）
- ・音楽の授業時間数が不足し、指導計画上に無理がある
- ・最終練習を公開参観可能とし、子供のやる気を引き出す機会
- ・本番はYouTube配信を行う

学年担任制 (チーム担 任)の導入

- ・高学年は学年担任制 始業式に児童に説明
保護者説明資料配付
- 4年生は2学級ずつ学年担任制
 - ・担任は朝の会・帰りの会・給食指導・清掃指導は順次入替
 - ・相談はどの先生にしてもOK 教員間の連携で共有
- ・3年生以上で教科担任制
 - ・できるだけ広い教科で行う
 - ・教科は1年間同じ先生が同じ教科にならないように工夫
- ・低学年、しいすまはチーム担任制
 - ・生活科を中心に教科の学びを複数で見ていく体制
 - ・2年生後期は一部教科担任を視野に取り組む
 - ・算数や国語を同時に設定して、課題別学習等の取り組み
- ・保護者対応
 - ・相談はどの先生でもOK 学年主任を中心に情報共有
 - ・その日の担任が連絡をする。継続案件は中心になる。

学年担任制 (チーム担任) の導入



週の授業時数を29時間から28時間に減少

木曜日の6時間目を「学年戦略ミーティング」の時間

- ・授業進度、子供の様子、保護者対応等の情報共有と次週の計画策定
- ・固定時間割ではなく、週末に担任から示される（高学年中心）

学習の目標やねらいを子供も知って取り組む授業

- ・できるだけ広い教科で行う
- ・教科は1年間同じ教科にならないように工夫

低学年、しいすまはチーム担任制

- ・生活科を中心に教科の学びを複数で見ていく体制
- ・2年生後期は一部教科担任を視野に取り組む
- ・算数や国語を同時に設定して、課題別学習等の取り組み

ワークテスト と ドリルの 採用について

今まで、ワークテストもドリルも各学年で選定していた

- 選定理由は学校としての統一はなかった
- 利用方法等もドリルごとに違いがある

今年度は、昨年度末に業者選定（プロポーザル）を行い、
得点化した上で採用

- ワークテストは知識技能の一部の状況を測定するもの
- 枚数が少ないものを採用
- ドリル（低学年）とワークテストは同一社（公文書院）

3年生以上はスマイルネクストドリル（柏市導入）で一本化

- 一人当たり1500円相当の税金で導入している（2重投資を避ける）
- 4教科全てそろっている
- 到達度、学び方、学習過程がわかる（紙ドリルは終わらせることが目的になりがち）
- ノートとの併用を行い、基礎的な力の定着を図る

教育課程（年間計画）の工夫改善

学校公開日(年間4日) の設定

- 6／28 12／11、12 2／9 (4/5年)、10 (1～3年), 13 (6年)
- 1時間目から6時間目 (4時間目を除く) の普段の授業を公開

職員研修のため昼食後下校

- 4／24 6／12 10／24 12／18 1／23 2／20
- 本校教員の学び（授業改善）の確保
- 富勢4校教員の連携した学習単元開発の確保

給食日数は184日で最大実施 必修クラブ活動の地域移行

教育ミニ集会 6/28 2/20 でカリキュラムを地域・保護者と検討

PTA活動から
地域学校協働活動へ

これまで

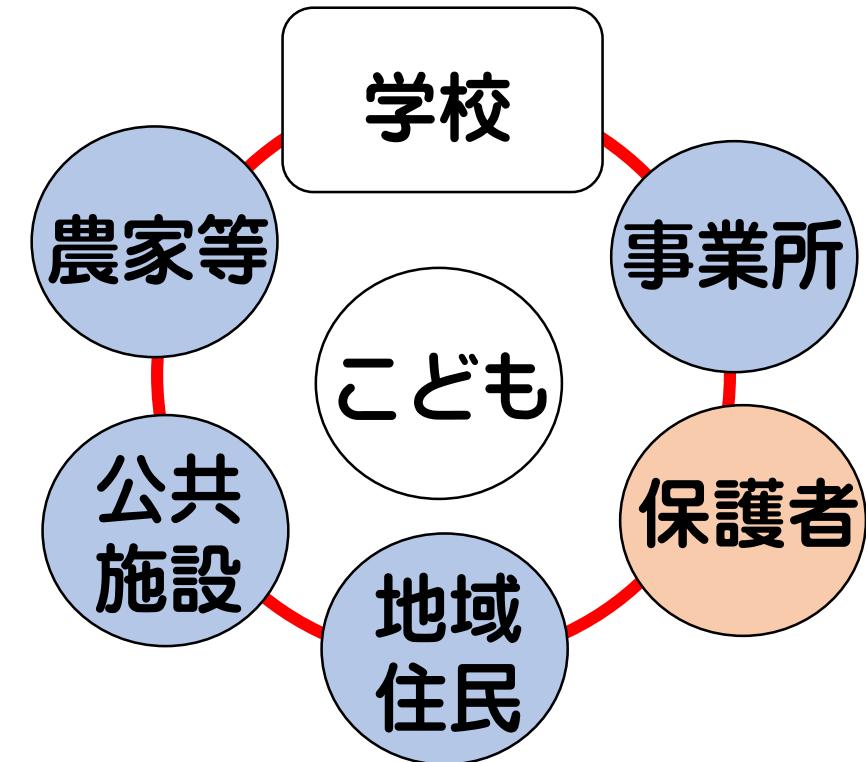
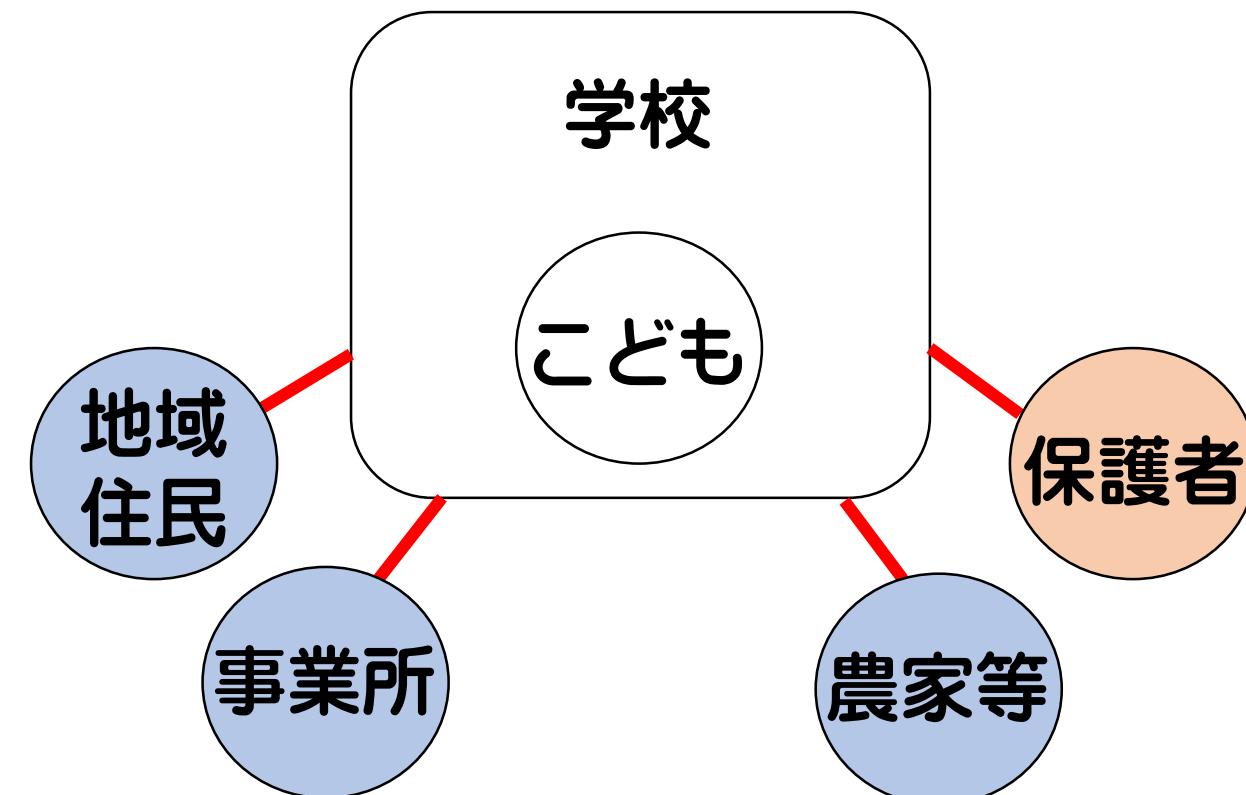
学校と保護者

学校と地域

別々に連携

これから

地域・保護者・学校が互いに
協力しあって子どもを支える



地域学校協働活動

地域学校協働活動とは

高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに、

「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動です。

富勢小学校 地域学校協働活動 くすの木サポートーズ

1. 組織

(1) サポートリーダー

学校・PTA・地域からそれぞれリーダーを選出

①年間のスケジュール管理

②ボランティアメンバーの募集、とりまとめ

③予算の管理

など

(2) チーフ

各グループにPTA・地域からそれぞれチーフを選出

①活動の計画・とりまとめ

②メンバーへの連絡

など

(3) メンバー

PTA・地域から募集

富勢小学校 地域学校協働活動 くすの木サポートーズ

2. 選出

(1) サポートリーダー

学校：教頭 教務主任

PTA：ボランティア募集

地域：民生児童委員やふるさと協議会役員など

(2) チーフ

PTA：ボランティア募集

地域：地域リーダー等が地域に声かけを行い選出

(3) メンバー

PTA：ボランティア募集

地域：地域リーダー等が地域に声かけを行い選出

富勢小学校 地域学校協働活動 くすの木サポートーズ

3. 活動予定のサポーター

- ①おはなしのへや（読み聞かせ）
- ②安全サポーター（交通安全・子ども110）
- ③学びサポーター（学習支援・校外活動支援）
- ④花いっぱいサポーター（花壇、学校園の管理）
- ⑤飼育サポーター（飼育動物等の管理）
- ⑥イベントサポーター（行事の手伝い・装飾等）
- ⑦学校美化サポーター（清掃や施設修繕）

- ⑧お助け隊（必要に応じて募集）

富勢小学校 地域学校協働活動 くすの木サポーターズ

登録したけれど一度も活動できない
複数のグループに登録

どちらもOK

できることをできるときに。
やりたいことをみんなで楽しく。

富勢小学校 地域学校協働活動 くすの木サポートーズ

3. 会 費

子ども達の生活・学習活動や学校行事の運営、来客対応等に必要な予算を「教育支援金」として徴収

各家庭200円

転出・転入については、月割りで返却・徴収

年間の不足分は旧PTA会費特別会計残金から支出

本年度の実績を元に次年度の必要予算を計画

富勢小学校 地域学校協働活動 くすの木サポートーズ

近日中に
「リーダー」「サポーター」「メンバー」の
募集を開始します。
GW開けから、随時活動を開始してい
きます。みなさまのご協力をお待ちし
ています。

これから一緒に創っていきましょう
子供を主語にした柏市立富勢小学校を

